

## 学習活動1:大阪弁の特徴やクラスメイトの名前で声調練習

⇒大阪弁の特徴を活用して声調を導入！

大阪弁には、仮名一文字の言葉は長音化し声調のような音の高低が現れる、助詞が省略されるという特徴がある。それを利用して声調の導入を行う。

### 活動の流れ

**Step1** まず、次の4つの文を発音させる。

「蚊取った？」(「かー」第1声)

「木切った？」(「きー」第2声)

「目痛い？」(「めー」第3声)

「毛切った？」(「けー」第4声)

**Step2** それぞれの最初の音の高低を意識させ、図示したものを見せる。中国語でも同じような音の上がり下がりがあり、それが意味の違い、漢字の違いになることを説明し、それぞれの声調を練習する。

⇒自分やクラスメイトの名前で練習しよう！

韻母、声母の練習はまだ全くしていないが、声調練習のために、クラスの生徒の名前を全員で発音する。その際に、声調符号のみを黒板に書きながら、発音練習をする。生徒の名前にちょうど3声+3声がある場合には、その部分を何度も発音し、声調変化に気づかせ説明する。全体での練習とともに、一人ひとりの生徒にも自分の名前を発音させ、音色がどうであろうと声調だけ正しければ、「よくできた」とほめて自信をつけさせる。声調が違っている場合には矯正する。

### 活動の流れ：

**Step1** 自分の名前を発音しながら、教室内を歩き回り、名前の最後の文字の声調が同じ人を見つけ、グループを作っていく。

**Step2** ある程度の時間が経ったところで、グループごとに自分の名前を発音させ、最後の文字の発音が正しいかどうか全員で確認する。これが形成的評価となる。

⇒大阪の駅名を使って鼻音韻尾をとまなう韻母を導入！

身近なことばを例に導入したほうがわかりやすい。大阪の生徒には大阪の駅名を使う。

### 活動の流れ

**Step1** 次の3つの大阪の駅名を発音させる。

「てんま(天満)」

「てんのうじ(天王寺)」

「てんがちゃや(天下茶屋)」

**Step2**

「ん」の音の違いに注意して発音させ、それぞれの音をどのように発音しているか気づかせる。それぞ

れの音が、日本語では意味の違いを生まないが、“普通話”ではm以外の2つの音が音節の最後で別々の音として意味の区別を生むことを説明し、意識させる。

☞ 自分やクラスメイトの名前を完璧に言おう！

声調、韻母、声母の練習を一通り終えたところで、クラスの生徒の名前を今度は声調、音色の両方が正しく発音できるように練習する。全体での練習とともに、一人一人の生徒にも自分の名前を発音させる。今回は、声調だけでなく、声母、韻母もうまく発音できていなければ矯正する。

活動の流れ：

**Step1** 生徒の名前の漢字を用いて、それぞれの漢字の声調やnと ng、有気音と無気音などを変えた選択肢をピンインで提示し、1文字ずつ聞き取りを行う。

例 1

A:měi    A':mèi

B:sān    B':sāng

C:tōng    C':dōng

**Step2** 生徒は発音されたと思うピンインに○を付けておき、あとで、そのピンインに対応する漢字を見ることで答え合わせをする。(発音が異なれば漢字が違ってしまふことを意識させる。)

例 2

A:měi(美)            A':mèi(妹)

B:sān(山) B':sāng(桑)

C:tōng(通)            C':dōng(东)

**Step3** 同じ形式のシートを使って、ペアワークで、一人の生徒が答えとなるピンインを発音し、もう一人の生徒が聞き取りをする。(答え合わせのみからは、正しく発音できたのか、正しく聞き取れたのかは確認できないが、生徒の正しく発音しようという動機付けになる。)

## 学習活動 2: 身近なことばで 2 音節の声調の組み合わせを練習！

声調、声母、韻母の発音の定着を兼ねて、毎回授業の最初に声調練習シート（2 音節の声調の組み合わせ）を使って発音練習を行う。表にされることばは、生徒がこれから実際にコミュニケーションで使えるように学校名、先生の名前、最寄りの駅、通学路線名、家族の呼称など身近なことばを使う。

### 声調のシート

	+1	+2	+3	+4	+轻
1+	gāozhōng 高中	Shāntián 山田	Qiānchǎng 千場	Fēng Xù 丰旭	māma 妈妈
2+	Shísān 十三	Méitián 梅田	Cháidǎo 柴島	Shénhù 神戸	yéye 爷爷
3+	lǎoshī 老师	Bǎnjí 阪急	Bǎozhǒng 宝冢	fǔlì 府立	jiějie 姐姐
4+	diànchē 电车	Nàiliáng 奈良	Dàbǎn 大阪	Dànlù 淡路	bàba 爸爸

☞グループでシートを埋める

#### 活動の流れ

**Step1** 表の形式に慣れたところに、枠だけのシートを用意し、習ったことばを生徒一人ひとりが埋めていく。

**Step2** グループワークでことばを共有し、その中から各枠一つのことばを選び表にする。新しいシートを用意し、グループが交代でまだ言われていない枠のことばを順に発音し、他のグループの生徒は表を埋めていく。

☞シートを使ったビンゴゲーム

#### 活動の流れ

**Step1** 1声から4声までの組み合わせの4×4のマスを用意し、それぞれのマスに声調の組み合わせにあうことばを個人で書き込んでいく。

**Step2** 書き込んだものと同じことばを16枚のカードにも書き、全員のカードを集め、箱の中に入れる。

**Step3** 箱の中から順に一人一枚ずつカードを引いて発音し、ビンゴゲームをする。

### 学習活動 3: 習ったことばで自己紹介に挑戦!

声調練習表にあった語句を使いながら、自分のことについて簡単に話したり、相手のことについて尋ねたりできるようになることをめざす。

#### 活動の流れ

##### Step1

簡単な自己紹介文のプリントを配り、意味を考えながら表現を練習する。表現は定型句を暗記して使うが、そのまま暗唱するのではなく、実際のコミュニケーションの場を想定し、自分の状況に合うようにアレンジしたり、身近なものを取り入れたりする。

##### Step2

授業外でも練習できるように、希望する生徒には、モデルリーディングを吹き込んだテープを渡したり、携帯電話に録音したりする。

##### Step3

生徒は練習後に先生の家へ電話し、留守番電話に自己紹介を残しておく、先生がそれを評価してくれる。

#### 自己紹介文の配付プリント

D à bǎn f ǔ lì Cháidǎo g āozhōng

我是大阪府立柴岛高中的学生。我从星期一到星期五都有课。

lǎoshī Fēng X ù lǎoshī Qiānchǎng lǎoshī

我的汉语老师是丰旭老师和千场老师。

Bǎn jí diànchē

我走路 / 骑自行车 // 坐电车 // 坐公共汽车上学。阪急电车车站有

Méitián Shísān Dànlù Shāntián Bǎozhǒng

梅田、十三、淡路、山田和宝冢等等。我在大阪住了.....年了。

Shén h ù Nàiliáng b à b a m ā m a y é y e

您去过神户和奈良吗？您爸爸、妈妈身体好吗？您跟爷爷一起

jiějie

住吗？您有没有姐姐？

※文字が大きくなっている部分が声調練習表にあった語句である。

## 評価活動：自分の状況に合わせて自己評価を発表

定期考査は、声調練習シートにあったことばを用いて自己紹介の口頭試験を行う。事前に練習用に配った自己紹介文のプリントにある文などをそのまま暗唱させるのではなく、生徒毎に自分の状況に合うように発表してもらう。試験後に渡す「評価ルーブリック」(次頁)は、試験前の自己評価、あるいは相互評価にも用いる。自分でチェックをした後、ペアで互いにチェックをし、4人のグループを作り、他の2人にもチェックしてもらう。互いに発音を教え合い、口頭試験に備える。

### ☞ 口頭試験

**Step1** 生徒に以下の課題カードを渡す

#### 自己紹介

- ・ 柴島高校の生徒
- ・ 月曜日から金曜日まで授業
- ・ 中国語の先生の名前
- ・ 通学方法
- ・ 阪急電車の駅（梅田、十三、淡路、山田、宝塚）
- ・ 大阪在住年数

#### 質問しましょう

- ・ 神戸と奈良に行ったことがあるか。
- ・ ご両親はお元気ですか。
- ・ おじいさん（父方の）と一緒に住んでいますか。
- ・ お姉さんはいますか。

**Step2** 生徒はまず自己紹介をする。続いて質問をする。口頭試験の場では ALT が応答する。

**Step3** 試験後に、事前練習に配った自己紹介のプリントと同じものを発音のチェックをして各生徒に返すとともに、評価票として以下のルーブリックも渡す。

評価ルーブリック

	正しい声調・正しい発音で言うことができる。	なんとか理解される発音で言うことができる。	言おうとしているが、伝わりにくい。	まだ、難しい。
学校名				
月曜日から金曜日まで授業				
先生の名前				
通学方法				
阪急電車の駅名				
大阪在住年数				
神戸と奈良				
ご両親はお元気ですか。				
おじいさんと住んでいますか。				
お姉さんはいますか。				

特に注意すべき発音

柴島 (Chái<sup>2</sup>dǎo)、神戸 (Shén<sup>2</sup>hù): 第二声 (Chái) (hù)

※この欄は、試験の練習として相互評価をする時、評価をする生徒から見て注意すべき点を書き込む。